

もし、歯や口にケガをしたら…

転倒や事故などで、歯や口にケガをした際の対処の仕方と、治療法についてお話しします。

近年、子どもが転倒した場合に、手をつかずに頭や顔面に大ケガをするケースが多くなっているという話をよく聞きます。いまどきの子どもたちは、昔の子どもたちに比べ、運動能力や反射神経が劣ってきているためともいわれています。

このような転倒や事故などにより、歯や口にケガすることがよくあります。その際の対処法と治療法についてお話しします。

■ 歯が折れたり 欠けたりした場合

歯冠部（歯肉の上の部分）で破折箇所が小さい場合は、レジンという歯の色に近い材料で修復したり、冠を被せたりします。歯髄（神経）が露出した場合は、感染が認められれば歯髄を除去しますが、状態によっては薬を用いて歯髄を残し、冠などで治します。歯根部（歯肉に隠れている部分）で破折している場合や歯根部深くまで縦に破折している場合は、予後が悪く、抜歯になることが多いのですが、ケースによっては破折部の再結合を期待したり、破折部位を接着したりするなどして様子を見ることもあります。いずれも早期に歯科医院に行き、折れた歯があれば持参するようにしてください。

■ 歯が抜け落ちたり ぐらついたりした場合

歯が抜け落ちた場合は、なるべく早く抜けた歯を持って歯科医に診てもらうことが大切です。このとき、歯が乾燥しないよう、牛乳や水に浸したりガーゼやティッシュに包んでおくとういでしょう。

また、泥などがついていても、歯根のところはこすったりしないよう気をつけてください。元の場所に歯を戻す処置（再植）を行い、動かないよう固定します。この場合、歯髄は壊死を起こしますので、歯髄を除去する治療も必要になります。抜けてから治療までの時間や周囲の骨の状態が予後を左右しますが、くっついた後も歯根部が吸収したりして、歯の寿命が短くなることがあります。歯が変色することも多く、審美的な問題となることもあります。

歯がぐらついた場合も、同様に固定をします。このケースも歯髄に障害が起ることがあり、歯が動かなくなっただけから様子を見る必要があります。

このほか、外から見ただけではわからないようなヒビが入ったり、顎の骨が折れていたりする重度のケースもあり、専門医の治療が必要になることがあります。

すでにいろいろな治療を受けている

成人や高齢者においては、歯質や顎骨の状態が悪くなっているため、治療方法も限られ、困難なケースも多く認められます。

■ 口の中が切れた場合

口唇や歯肉、頬粘膜は損傷を受けると血管が豊富に存在するため、かなり出血します。

また、唾液が混じるために、傷口以上の出血に感じられます。清潔なガーゼなどで傷口を強く圧迫して止血するようにしてください。15分以上圧迫しても出血が止まらないようであれば、歯科医院や口腔外科で傷口を縫合する処置が必要な場合もあります。

